

第4回(平成22年度)栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

☆ 農村環境保全向上の部

(1) 審査経過

農村環境保全向上の部には、13組織からの応募があり、いずれもの組織も、地域における話し合いの下、各々の特性を活かした活動を展開しており、意欲や熱意が伝わるものでありました。

審査委員会では、①体制の充実(多様な主体による協同体制、将来像の明確化、人材育成など)、②創意工夫と自立性(地域の特性を活かした工夫や自立に向けた意識醸成など)、③環境保全や農業振興への寄与(地域の環境保全や農業振興等の取組など)、④多面的効果の発信(環境教育や積極的な情報発信など)の4つの視点から審査を行いました。

まず、1次審査として、4つの視点を踏まえ、活動が優良と判定される組織の上位7組織を選出しました。

次に2次審査として、現地調査も加味した上で上位3組織の活動を評価・意見交換を行い、最終的な受賞候補組織を決定しました。

(2) 受賞組織の概要

● とちぎ元気大賞(関東農政局長賞・栃木県知事賞)

三区町環境保全隊(那須塩原市)

混住化が進行する中、多くの地域住民の参画を得て、生態系の保全をはじめ、景観向上や水質保全など、幅広い活動を実践しています。

また、那須疏水などの農業用水路の歴史や役割の理解促進を図るため田園ウォークや学校との連携に取り組むとともに、環境に配慮した農業生産にも精力的に取り組んでいます。

さらに、住民アンケートによる活動を検証しながら、NPO化への勉強会など将来の活動の継続に向け、工夫して取り組んでいる点を高く評価しました。



生態系保全活動・学校教育との連携
(学校敷地内のビオトープにメダカ放流)



地域外の方も参加した
「那須疏水&田園ウォーク」



若手農家の会合による話し合い
「三区町の未来を考える会」

● とちぎ元気賞(栃木県知事賞)

下沢引田農村環境保全の会(鹿沼市)

地域の農村公園を拠点とし、地元の人材である”ふれあいみどりの村”の構成員(様々な分野の体験指導員)を中心として、地域環境保全活動や、多彩な体験活動を企画実践しています。

なかでも、田んぼオーナー、山の学校など様々な活動を通じて、多くの子ども達を含めた地域住民や都市住民の積極的な参加・交流を深めています。

保全活動に全員が楽しみながら取り組んでおり、継続性に期待が持てる点を評価しました。



田んぼのオーナーによる田植



里山を活用した「山の学校」

● とちぎ元気賞(栃木県知事賞)

大柿の郷をまもる会 (栃木市)

地域の遊休農地を活用し、菜の花、ソバ等による景観づくりに取り組み、なたねの搾油、地元祭りへソバ粉の提供など、活動の成果を地域に還元しています。



なたね油を学校給食へ寄贈

地域条件や地域資源を上手に活用している点を評価しました。



遊休農地を活用した菜の花植栽と「大柿の桜のある景観」

● 特別賞(栃木県農業協同組合中央会長賞)

原環境保全会 (益子町)

農業用水の水源であるため池の整備を契機に、ため池周辺の景観づくりについて、企画から実践まで真岡北陵高校(農業高校)と連携して取り組んでいます。

また、生きもの調査により発見されたメダカやヌマエビを地域で増やし放流する取組など、地域生態系の保全にも努めています。

地域の学校等と連携した工夫ある活動を評価しました。



真岡北陵高校とのため池周辺への植栽活動

白鳥緑と水辺の郷 (小山市)

景観形成と管理の省力化を併せたイワダレ草の法面植栽や水田魚道の設置に取り組み、環境保全型農業を実施し、地域ブランド米「生井っ子(特別栽培米)」の商品化を図るなど、環境保全に向けた地域の総合的な活動を評価しました。



イワダレ草の植栽

● 特別賞(下野新聞社長賞)

姿川環境保全会 (宇都宮市)

地域内外から多くの参加者を募り、生きもの調査やため池の外来種駆除を実施しています。また、地域の「姿川のいきもの図鑑」を作成して地域住民に農村環境への理解促進を図るなど、積極的かつ工夫ある生態系保全活動を実施している点を評価しました。



ため池の生きもの調査および外来種の駆除

東上すいせんの会 (高根沢町)

高根沢町立”エコ・ハウスたかねざわ”や宇都宮大学自然教室”ネイチャークラブ”と連携した地域交流型の生きもの調査や環境ウォーキングを実施し、さらに、地区全体にすいせんロードをつくるなど、地域の絆を深める取組を評価しました。



環境ウォーキング